

＜事例1＞ 学級担任による音楽科指導

～音楽を特徴付けている要素に親しむためのアプローチ～

1. はじめに

読解力の育成に当たり、音楽科としての側面から研究するチャンスに恵まれた。小学校における『音楽の時間』を生き生きとした輝きのある時間でありたいと願う私の根底には、自らが経験してきた‘小学校での音楽の授業の楽しさ’が深く息づいていることに気付くのである。この楽しさは音楽を愛好し、一生の宝とする一番の原動力であるとする。担任の先生と共に楽しんだ音楽の授業も、専科の先生に教えていただいた音楽の授業も、私にとっては宝物である。毎週変わるクラスの背面黒板に書かれた『歌』、これには季節感があり、クラスの子どもたちの気持ちにぴったり寄り添ったものが選ばれていた。担任の先生がオルガンで伴奏してくださったのか、いわゆるカラオケで歌っていたのかは定かでないが、クラス全員が大きな声で、気持ちを込めて歌っていたことははっきり覚えている。

蝉が鳴き始める頃には「～むぎわらぼうしに トマトをいれて かかえてあるけば [ウン] あついよ おでこ タララタ ラッタッター タララッタ～」これは、夏が来るぞと私達に季節を伝え、みんなが元気になる歌であった。付点四分音符と八分音符に四分音符が2つという4拍子のパターンがつながるメロディーに、突然メロディーの始めに出てくる四分休符がおもしろくて、おもしろくて、足で床を踏みならしたり、おでこをポンと叩いたりしながら、その[ウン]のタイミングをわくわく待った曲であった。「白い 雲が 流れる あの花こえて～四十四の友～」これは、短調のメロディーにクラスの詩をのせて担任が作曲してくださった3年3組のクラスの歌である。この時、初めて短調の切ない旋律に触れたと思われる私達は、えもいわれぬ結束感に包まれ、今年1年間で終わりとなる（3年間クラス換えがなかった学校であったため）3年3組に強い愛着をもったものだった。3年間に百曲を超える愛唱歌を、生活と共に教えていただいた。

このように、学級担任は児童と共に過ごす時間が一番長く児童理解も深い。また、色々な教科を通して児童と接することができる点でも、音楽を教えるスペシャリストであると思われる。そのチャンスを生かし、音楽活動の基礎的な能力を培うには、担任が音楽の諸要素を理解し、それにポイントを当てた授業を展開していくことが重要であるとする。そして、児童が音楽を感じ取り、それを自分らしく表現・発信していく手立てとして、読解力を育成していきたい。また、生活を共にしている子ども達が、日々の生活、行事、様々な教科の学びを通して、多様な音楽にふれ、その音楽を作り上げている諸要素の働きを感じ取り、理解を深め、自分の好きな音楽を意識できる力を育成したいとする。そして、感じたことや感動したことを言葉や音によって表現する、他に伝えるという自己表現能力を大いに培っていきたい。

以下に示した「学級担任の音楽」は、担任の先生ならではの可能である「時間」「場」「他教科との関連」等の工夫を盛り込んだ、音楽の授業の一例である。音楽における読解力に関する事項を意識しながら、音楽のおもしろさ、よさを享受し、表現していくことのできる児童を育てていきたいとする。

本事例の内容は、以下のとおりである。(項目をクリックすると各ページが表示されます)

1 学級担任の音楽

「リズム・拍子の読解に迫るおんがくあそび」(対象 第1学年及び第2学年)

授業プラン

- A 2拍子・3拍子・4拍子になれよう
- B 拍感になれよう
- C 体を動かしてみよう
- D 楽譜(リズム譜)を見てみよう

「歌詞の読解を深め 音楽をより深く理解し、表現しよう」(対象 第3学年及び第4学年)

授業プラン

- A 歌詞を理解し、気持ちをこめて歌おう
- B 歌詞をみんなで理解し、気持ちのこもった歌をつくろう
- C 言葉を理解し、味わい、言葉に合う音(音楽)を調べよう
- D 歌詞をよく理解し、味わい、語りを入れて楽しもう

「テーマを決めて読解し、興味をもって広げよう」(対象 第5学年及び第6学年)

授業プラン

- A 世界の音楽を聴き、興味をもとう
- B いろいろな音楽を聴き、テーマを決めて調べよう
- C リズムを楽しみ楽譜に表そう(★)
- D 思いを楽譜に表そう

第5学年 音楽科学習指導案(★印プランの展開例)

2 鑑賞インデックス

作成にあたって

使い方

鑑賞インデックス(第1学年及び第2学年)

鑑賞インデックス(第3学年及び第4学年)

鑑賞インデックス(第5学年及び第6学年)

学級担任の音楽

「リズム・拍子の読解に迫るおんがくあそび」

1 対象 低学年

2 音楽科の視点から育成を目指す能力

低学年の音楽科学年目標「リズムに重点を置いた活動」を中心に、日常の生活に関連させながら、音楽のしくみの中のリズムに着目し、幅広くリズム活動を経験し、音楽表現の楽しさに気付くこと。

3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

リズムに重点を置いた表現活動において、テキスト（リズム）を利用して自分の思いを表現する能力の基礎を育成する。

4 授業プラン

A 2拍子・3拍子・4拍子になれよう

(1) 時の工夫 : 音楽の授業、最初5分を利用

(2) 他教科との関連 : 体育（表現活動）

(3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
・教室いっぱいに広がりながら、一人ひとりが音楽に合わせて歩く ・2人組みになり、手をつなぐ ・音楽に合わせ、拍子に合う、パフォーマンスを行う 拍子の基本パターン 2拍子：自分 友達と 3拍子：自分 友達と 友達と 4拍子：自分 友達と 友達と 友達と *自分 →自分で手をたたく *友達と→友達とパンと手のひらを合わせ	・オルガンで伴奏でも、CDを用いた伴奏でもよい（テンポは自由。その日の児童の様子により、決める） ・音楽の授業が楽しく始まるよう、組み方（男女別、一緒等）は指示する ☆ピアノ伴奏（CD）を聴き、友達とそれが何拍子か考え、ぴったり合いそうな基本パターンのパフォーマンスを行う ・教師は2拍子、3拍子、4拍子の曲をランダムに色々弾く（CDをかける） ・2人組みのペアを時々変える ・児童は大きな声で「1.2/1.2/・・・」「1.2.3/1.2.3・・・」「1,2,3,4/1,2,3,4・・・」と言いながら行う ・毎時間、繰り返し行うことにより、拍子に対する感覚の定着を図る

B 拍感になれよう

(1) 時の工夫 : 朝の会を利用 (各教科の授業の中で、気分転換時に行っても効果的)

(2) 他教科との関連 :

(3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
- 朝の挨拶のあと、担任が指で2、3、4を出す 2 → 2 拍子 3 → 3 拍子 4 → 4 拍子 2が出た時、児童は○● ○● ○●と2回ずつ手をたたく【2拍子】 3が出た時は、○●● ○●●と 3回ずつ手をたたく【3拍子】 *○→強く ●→弱く - 何回も繰り返す - グループ、隣同士などで行う	- 短い時間で行うよう心がける - 約束事の確認を学期の始めに行う □朝の会では自分の席、授業中には黒板の前に集めたり、教室の真ん中に集めたりして雰囲気を変えながら楽しむ - 拍の頭を強くたたくことにより、拍感を意識するようにする 2・3・4の指示をゆっくり変えたり、早く変えたりすることにより、児童の集中を高めながら、数多く拍感の経験ができるようにする ☆支持を出す児童、反応する児童ともに、拍感を理解しそれに慣れ、2拍子、3拍子、4拍子を利用して楽しくリズム遊びを行おうとする

C 体を動かしてみよう

(1) 時の工夫 : 行事時 (練習を含む)、雨天時休み時間に行う

(2) 他教科との関連 : 学級活動 特別行事

(3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
「しろくまのジェンカ」をジェンカの振りで踊る - ゲーム形式にし、じゃんけんを行い、負けた人が勝った人の後ろにつき、何回も繰り返す - チャンピオンを決める - 他の曲でも同じ振りで行う	☆流れた音楽を聴き、身体表現を通し、2拍子に自然に慣れるようにする 「1○2○/1, 2, 3, 4」と声をかけながら踊る - 親子レクリエーション、他学年との交流会などに行うのもよい (楽しさを優先させる) □体育館、机を回りに寄せた教室など、広い場所で行う

D 楽譜（リズム譜）を見てみよう

（１）時の工夫：音楽の時間（該当するリズムが登場するたびに）日常

（２）他教科との関連：学級活動

（３）学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
- 基本リズムパターン 1つ打ち：○うん○うん 3つ打ち：○ ○ ○うん を手でたたく 1つ打ちに合わせて、教師が児童の名前を呼び、児童は「は あ い うん」と答える 3つ打ちに合わせて、物の名前などを言う 例：バナナ うん・りんご うん - 丸くなりクラス全員でリレー形式で遊ぶ - 教科書の曲や日常で耳にする曲で基本リズムパターンが合うものを探し、歌いながらリズム打ちを行う - リズム譜を見せ、児童が行っているリズム打ちが対応することを知らせる	- 何回も繰り返し、定着を図る 「うん」の時にはしっかり手を握るようにする - 教師は大きな声で呼びかける - 児童はリズム打ちと、返事が呼応するようゆっくり行うようにする 3つ打ちの一つの○には、最初は1文字。慣れてきたら、2文字等入れることを認め、活動の幅を広げる。例：「パイ・ナップ・ル・うん」 - つながらない時は、ゆっくり待ち、元気よくリズム打ちと言葉が呼応するようにする ☆日常耳にする曲から児童が「あっ、先生この曲、1つ打ち（3つ打ち）のリズム打ちするとぴったりだよ」と気づき(分かり)、表現活動しようとする □リズム譜を教室に掲示し常時、自然に目にできるようにする ☆児童から他のリズムパターンが提案された時は、採用し、クラスでリズム遊びを行った後、リズム譜を追加掲示していく

「歌詞の読解を深め 音楽をより深く理解し、表現しよう」

1 対象 中学年

2 音楽科の視点から育成を目指す能力

中学年の音楽科の内容①表現の能力【歌詞】に示されている「歌詞の内容にふさわしい表現の工夫」を行い、音楽活動への意欲を高め、音楽表現の楽しさを感じ取ること。

3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

歌詞を理解することや音楽を聴くことを通して、音楽的な特徴などについて感じたり、理解したりして、演奏上の工夫について考え、言葉(歌詞)や音楽で表現する能力を育成する。

4 授業プラン

A 歌詞をよく味わい理解し、気持ちをこめて歌おう

(1) テーマ : 校歌を大切に歌おう

(2) 他教科との関連 : 学級活動 国語 社会 理科

(3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
- 校歌を歌う(クラス・音楽朝会等) - 歌詞をしっかりと味わう - 分からない語句の意味を調べる(グループに分け、調べ活動等) - 調べたことを発表しあい、クラス全員で校歌の歌詞の意味を解釈する - 楽譜を掲示し、旋律線や、強弱記号などを分析する - 歌詞を記入し、自分たちの大切にしたい言葉と楽譜に記されている	- 学年の始まりにふさわしい活動であることを意識するようにする ☆ 板書し、詩として解釈を進める ☆ 歌詞に学校の歴史、地域の様子、自然に関することが出ている場合は、それも調べるようにする ・発達段階に合わせ、【辞書で調べる・取材する】等の活動に進む □ 図書室、職員室、校長室などを必要に応じて活用する ・歌詞を共通理解することにより、学校に対する愛校心を深め、より、校歌を大切にしようとする気持ちを高める ☆ 歌詞としての高まりと旋律線の動き方(中学年の目標)、どこをどう歌いたいかという気持ちと強弱記号等の関係等を調べ、旋律と歌詞の関係を理解する

る旋律、曲想をあらわす記号の関係を知る ・ 気持ちをこめて校歌を歌う	☆ 未習の記号については、児童からの要望があれば、知らせたり、調べさせたりする ・ 歌詞の意味を知り、より大切に歌うようにする
---------------------------------------	--

B 歌詞をみんなで理解し、気持ちのこもった歌をつくろう

(1) テーマ : クラスの歌をつくろう

(2) 他教科との関連 : 学級活動

(3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
「クラスの歌をつくろう」と提案し、歌詞の募集を行う - 集まった歌詞から、いくつか候補を決める - キーワードとなる言葉をいくつか絞る - 言葉からくる音楽的イメージをたくさん出し合う - 言葉のイメージに合う音楽づくりを行う ア) 既成の曲を用いる 例：歌集の愛唱歌、CMソング、テレビ主題歌 イ) 曲づくりを行う ＊話し合いによりア・イを選択する	- 児童から提案された場合は、よりよい活動となる - 学級活動の時間を使い進めるときは、選択方法をクラスで決める - クラス全員で、大切にしたい言葉を決定していく ☆ キーワードとなる言葉の意味を共通理解し、その言葉からくる音楽的なイメージを出し合う 例：「助け合う」→力強い感じ 「にこにこ」→明るい感じ 軽やかな感じ 「笑い声」→高い音がいい 弾んだ感じ 「一人ひとりが」→温かい感じ - 発達段階を考え、無理のない音楽的な曲づくりの活動にする

C 言葉をよく味わい理解し、合う音（音楽）を調べよう

(1) テーマ : 言葉からくるイメージに合う音（音楽）はどんな音（音楽）？

(2) 他教科との関連 : 国語 図工 理科

(3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
--------	------------------------------

- 様子、現象、音、におい、気持ちなどを言葉で表す 【国語】物語を使って 例：冬の様子がよく分かります 〇〇が悩んでいます 【図工】絵を提示して 例：夕焼けの空がきれいです 町のにぎわいが分かります 【理科】実験を通して 例：水の流れ方が速いです 電気が通り、光がつきました - 児童から出された言葉を板書し、それぞれ逆の意味を表す言葉を考える - それぞれ対照的な言葉に合う、音（音楽）はどういう感じか、言葉で表す 例	- 自由に思いつくまま意見が言える雰囲気を作る - どの教科を用いて授業を進めてもよい - 児童の興味関心が高まるよう、色々な教科の題材を用いる - 実際の絵の提示や、実験を想起させてイメージを言葉にしやすくなるようにする - 言葉を重視するために行う 例：【国語】冬⇔夏 悩む⇔悩んでいない 【図工】夕焼け（夕方）⇔朝焼け（朝） 町⇔いなか 【理科】速い流れ⇔ゆっくりした流れ 光がつく（明るい）⇔消える（暗い） ☆ 対照的な言葉を提示することにより、音楽的なイメージを考え、言葉で表現しやすくする
冬⇒寒い、雪、どんより、白 ♪重い感じ、暗い感じ、ゆっくりした感じ、おだやかな感じ ↓ リズム：一定のリズム 旋律：なめらかに続く感じ 曲想：ゆっくりとしている 合う楽器：〇〇 夏⇒暑い、太陽、夏休み、オレンジ ♪軽やかな感じ、明るい感じ、速い感じ、元気な感じ ↓ リズム：スキップの感じ 旋律：高い音や低い音がとつぜん出てくる感じ 曲想：飛び跳ねるような感じ 合う楽器：△△	
実際に冬（夏）をテーマにした曲を何曲か鑑賞する ＊ 創作活動にも展開していくことができる	☆音楽の要素、構成、媒体、曲想等について言及した感想をもつようにしたい ☆言葉のイメージをしっかり掴んだ発展として、イメージに合う音楽を作ることも楽しい活動である

D 歌詞をよく味わい理解し、語りを入れて楽しもう

(1) テーマ : 間奏部分に語りを入れて、曲をもっと好きになろう

(2) 他教科との関連 : 国語 道徳

(3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
・ 歌唱曲を歌う ・ 1 番 2 番 (3 番) の間に語りを入れることを提案する 例 : 3 学年 「友達」秋間ゆう子作詞・作曲 ・ 歌詞を音読する ・ 歌詞から感じる事、分かること等を話し合う ・ 道徳の学習を想起したり、友達との出来事を思い出したりして、友達のよさを確認しあう ・ 各自、友達に向け、短いメッセージを書いてみる ・ 1 番と 2 番の間に間奏を入れ (短い場合はハミングでメロディーを演奏し感想とする)、メッセージを読む	・ 愛唱歌や教科書の歌唱曲を楽しく歌う ・ 歌詞や曲をよく味わい、その曲を児童が好きになることが大切である。 ☆各自で音読、精読 クラスで群読、教師が範読等、工夫し、何回も味わい、歌詞のもつ意味を理解する ☆歌詞の意味をより深く理解するために、自分のもつ考えを発表しあう ☆「友達」について自分の心と対話し、思ったことを文章で表す ☆思いを、より精練するために、実際に〇〇さんに向けたり、集団としての「ともだち」に向けたりする □☆音楽室だけではなく、教室で芝生の上で歌ったり、間奏の間にメッセージを読んだりして歌詞や言葉と音楽の関わりを味わい、楽しむようにする

「テーマを決めて読解し、興味をもって広げよう」

1 対象 高学年

2 音楽科の視点から育成を目指す能力

高学年の音楽科指導内容に示されている「歌詞の内容を理解して、それを生かした表現の仕方の工夫」をし、音楽活動への意欲を高めたり、音楽の諸要素に着目し味わって聴いたりして、音楽表現の楽しさを感じ取ること。

3 「読解力」の視点から育成を目指す能力

歌詞を理解することや音楽を聴くことを通して、音楽的な特徴などについて感じたり、理解したりし、演奏上の工夫について考え、整理し、言葉(歌詞)や音楽で表現する能力を育成する。

4 授業プラン

A 世界の音楽を聴き興味をもとう

(1) 時の工夫 : 音楽の授業等できっかけをつかみ、調べ学習は適した教科の時間を使う

(2) 他教科との関連 : 国語 社会 総合的な学習の時間

(3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
- 音楽の授業を中心に「世界の音楽」を聴く(各教科で関わりがあった時に聴くとよい) - 感想を思い思いに述べたり書いたりする - 発表タイム(発表例) 「めちゃくちゃな行進曲みたい」(トルコのメヘテルハーネ) 「でたらめな感じ」(インドのシターとタブラーの演奏) 「広々とした感じ、自然を感じる」(モンゴルモリンホールの演奏) - 個人またはグループで調べ活動に入る	☆世界にはそれぞれの国、文化があり、その風土や民族性によってはぐくまれる音楽に違いが存在することに気付くようにする ・曲名や国名を知らせず聴かせ、耳から入る情報(音楽)だけで感想をもつようにする ☆それぞれの児童への音楽読解のための手立ての例 *行進曲と感じたことを褒め、モーツアルトやベートーベンがこの楽曲を聴き「トルコ行進曲」を作ったことを知らせ、作曲家や、行進曲等に興味をもたせる *音の並びに言及しようとしている表現であることを知らせ、その国のもつ独自の音階等に着目させる *下学年で学習した「スーホの白い馬」の経験からの感想であろう 何がそのイメージをもたせたか、音楽の仕組みを読み解くようにさせる(楽器、テンポ等) □図書室、コンピュータ室、市の図書館等を利用 ・テーマごとにグループを作るのもよい

・ 調べたものを掲示し情報を共有化する	☐ 教室に掲示し、児童がいつでも情報を得たり、より興味を広げたりできる環境づくりを心がける
---------------------	--

B 色々な音楽を聴き、テーマを決めて調べよう

- (1) 時の工夫 : 夏休みなど長期休業を利用
- (2) 他教科との関連 : 学級活動 国語 社会 理科 総合的な学習の時間
- (3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
・ 音楽の授業で色々なジャンルの音楽を聴く（1時間の中で数曲聴いても、毎時間1曲ずつ数時間にわたって聴いてもよい） * 児童からのリクエストによって選曲するのもよい ・ 感想を述べたり書いたりする ・ 各自の感想から、自分が調べたいことを決める 作曲者、作詞者について 楽器について（しくみ、歴史、奏法等） 背景となる歴史について その国の文化、生活、地理について ・ 各自、テーマに沿って調べ進める	☆聴くポイントとして、『音楽の要素（リズム、旋律、ハーモニー、速さ、調整、拍感、曲想など）構成、媒体（楽器、人の声など）』があることを知らせる ・ 児童の興味、関心をより高めるためたり、音楽の幅を広げるためにリクエスト方式も有効。 ☆鑑賞インデックスを参照し、音楽的な表現を表す言葉を用いて感想を述べたり書いたりできるようにする ※「鑑賞インデックス」へ ☐図書室、コンピュータ室を利用する ☆聴いたポイントを明確にし、興味、関心をどう広げていくのか、どう、深めようとしているのかを各自決めていく ・ 総合的な学習の時間、夏休み等の長期休業を利用し時間を確保 興味を広げられるようにする

C リズムを楽しみ楽譜に表そう *参照資料 展開例

- (1) 時の工夫 : 単発の音楽の時間などでの授業が可能
- (2) 他教科との関連 : 学級活動 総合的な学習の時間
- (3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
・ リズム遊びを行う ① さまざまリズムの繰り返し遊び * 教師またはその場のリーダーが、	☆音楽の要素の一つ『リズム』に授業のポイントを絞り、低学年から培われてきているリズム感覚をベースとし、その情報を整理してとらえるための

手や足でつくるリズムを、クラス全員で模倣する（速さを変えたりフレーズの長さを変えたりし、色々なバリエーションに親しむ） ② 3拍子、4拍子の聴き分け遊び *オルガン、ピアノ、CDから流れる曲に合わせ、2人組みになり、3拍子、4拍子を聞き分け、身体表現を行う（身体表現の仕方は、教師又はその場のリーダーが決める） ③ リズム送り遊び *クラス全員が輪になり、教師またはその場のリーダーが発信するリズムを全員でリレーして楽しむ ・ リズム遊びで登場したリズムの整理を行う * 児童に本時で登場したリズムを数多く、想起させる（手で打ってみる） * 次にその中のリズムを一つ決め、自分なりの方法で紙にかく作業を行う * 発表タイムを設け、発表する 【次のリズムを決め、同じように各自、紙にかき、発表する】 * 音符による表記方法を知らせる * 本時で登場したさまざまなリズムを音符で書いてみる	音楽の準備体操を行う ・ 指示を出したり、リズムを決めたりする活動を、教師のみにとどまらず、その場で決めたリーダーに行ってもらい そのことにより、児童は興味・関心が高まり、集中力を高めることが出来る また、自らがリーダーになる可能性も考えられ、より意欲が持続し、楽しい活動となる □音楽室、教室、屋外、どこでも行うことが出来るよさがある ☆ たくさんのリズム（情報）を整理していく ・ 手で打つことにより、緊張することなく、楽しく思い出させるようにする（クラス全員で打ち、確認する） ☆ 感受したリズムを紙にかくことにより（低学年からの経験をもとに）情報を整理し、知覚していく ☆ 出された表記方法に共通したものを発見する ・ 最初、全く表記できなかった児童も、今の発表を参考に、自分なりに整理できるように声をかける ☆ 最後に、いつでも、どこでもみんなが共有できる表記方法として「音符」での表し方を知らせ、そのよさを知り、使うことができるようにする
--	---

D 思いを楽譜に表そう

(1) 時の工夫 : 1年間を通して進める

(2) 他教科との関連 : 国語 図工 総合的な時間 学級活動

(3) 学習の進め方

学習の進め方	・担任としての留意事項 ☆読解力に関する事項 □場の工夫
- 日々の自分の気持ちや行事などの思い出を目に見える形で残し、クラスのアルバムを作ろう ＊総合的な学習の時間、学級活動などを活用し、どのような表現方法があるか考える 例【作文・詩・絵・音楽】 - それぞれの方法で各自またはクラスでアルバム作りを進めていく ＊音楽を選んだ場合の進めかた例 【詩に曲をつける】 ① 作文や詩から思いを整理した『歌詞』をつくり、既成曲に合わせてみる ② 選んだ曲の楽譜を用意し、歌詞を当ててみる ③ 演奏し、表したい気持ちと合うようであれば、アルバムに加える 【イメージに合う音(音楽)をつくる】 ① 日記、作文、絵などから、音楽をつけて気持ちをさらに表現したい題材を選ぶ（絵は説明文を付ける） ② 題材に選んだものを音(音楽)で表現していく方法を考える a：気持ちを音の高さ低さで表現するために線で表す b：気持ちをリズムで表現するためにリズム譜に表す c：様子や気持ちを音の長さや音の重なり、ぶつかり合いで表現するために線や形で表す d：どんな音で表現したいか、楽器を	「クラスのアルバムを作る」作業を行うとき、クラスで一緒に活動した事柄が中心になることが多い。そこに、一人ひとりのプロフィールも独自な形で加えれば、個を大切にしたいクラスのアルバムとなる ☆音楽を表現方法として選んだとき、思いを目に見える形で残すために、『楽譜』に表すとよいことを知らせる □製作しているものを誰でも見られるように、教室にアルバム製作棚のようなものを用意する - どういう気持ちでつくった詩かを整理し、既成曲を何曲か選ぶ ☆それぞれの既成曲の「要素、構成、曲想」と自分の思いを対比させ、合う曲を選ぶ - 曲を創作することを望む場合は、各自できる範囲での創作活動を行う（提示したリズムパターンや数小節のメロディーパターンを利用したりする） - 題材選びを行う時、より気持ちの高まりがあるものを選択するようにし、その時の気持ちを整理しておくようにする ☆どのような状態、どのような気持ちを音（音楽）で表現したいかを詳しく文で表すようにする 例：キャンプファイヤーの楽しかったときの気持ち 山頂に着いたときの達成感 友達と喧嘩したときの後味の悪さ ☆その表現方法として旋律や、リズム、ハーモニー等の音楽の要素と、何で表すかという媒体（楽器、声）、曲想があることを知らせる - 音の高低、リズムなど児童の音楽的発達段階に

選んだり考えたりして絵で描き表す ③ ノートや模造紙に表したい文章を書き、その下に②で考えた『音(音楽)』をかいていく ④ 文章に合わせて、演奏し、クラスの皆で表記方法をより分かりやすいものにしていき、アルバムに加える	応じて音符で表してもよいことにする ・ 既習の表記方法（曲想記号など）は用いながら表現していくようにする ☆ このような形のものが、思いを読解し、紙にそれを表現し、一般化していく『楽譜』の原型の一つであることを知らせるようにする ☆ クラスの皆で表記方法を工夫、精選していくことにより、表記がクラスの共通のものになり、一般化されていき、クラスの『楽譜』が誕生する
--	--

第5学年 音楽科学習指導案

1 題材名 リズムを楽しみ楽譜に表そう

2 題材について

(1) 児童観

本学級の児童は、明るさ、冒険心を多分にもち備えている児童の集団である。常に楽しいこと、愉快なことに向かおうとしている元気な児童が多い。クラス編成による友達作りの第一段階が終了し、お互いに気持ちを素直に言い合える環境を築きあげようとしている現在である。男女の仲はよく、お互いに言いたいことを言い合える学級を目指している。係り活動など前向きに取り組む児童が多く、創造的な仕事を楽しもうとする児童も出てきている。児童は音楽が好きであり、自分の感情を素直に表現し、積極的に取り組んでいる。発声、楽器の奏法等は限られた時間の中、できる限り基本に基づき、繰り返し毎時間扱うように心がけている。そのことにより、より音楽活動がスムーズに行われ、音楽を愛好する児童が育成されることを願っている。

(2) 題材観

本題材では、音楽の要素の一つである『リズム』に活動の視点をしぼり、下学年から培われてきているその要素に重点を置き、基礎的な表現能力を育て、音楽の楽しさに気付くことを目標としたいと考える。音楽の根幹を成すと考えられる『リズム』。音楽に感覚的に反応し、歌や楽器の演奏に合わせて手や打楽器でリズムを打ったり、音楽のリズムに合わせて身体表現をしたりする活動を通して、拍感やフレーズ感も養いたい。また、音楽活動の基本的な能力を培うためにリズム譜に充分親しみたい。その音楽的能力をもとに、耳から聴こえる情報としての音を知覚し、読み解き、音楽を感受するというような活動へと発展させていきたいと考える。

今回の授業では、効果的な展開を図るために一斉指導を基本とし学習を進めていく。クラスという生活を共にする集団のよさを生かし、安心して表現活動を繰り返し、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てていきたいと考える。

3 題材の目標

- いろいろなリズムに親しみ、リズムに合った表現を工夫する。
- 感受したリズムを整理し、表現活動や創作活動に生かせるようにする。

4. 教材について

- ・ミッキーマウスマーチ
- ・アメリカンパトロール

5. 題材の評価規準

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	リズムを感じたり、つくって表現したりすることに興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動に取り組んでいる。	音楽を聴くことや音楽遊びを通してリズムのおもしろさを感じ取り、表現の仕方を工夫している。	様々なリズムを理解し、リズム伴奏やリズムアンサンブルを工夫して表現している。	楽曲を特徴付けているリズムや演奏の工夫を感じ取って聴く。

6. 本時の学習 (1/3)

(1) 目標

- ・進んでリズムを楽しみ、情報を整理し、楽譜に表すことができるようにする。

(2) 評価規準

- ・リズムを感じ、興味・関心をもって、進んで活動している。(音楽への関心・意欲・態度)

- ・様々なリズムを聴いたり打ったりし、リズムのおもしろさを感じ取っている。(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・様々なリズムを整理して聴き、リズム譜に表現することができる。(表現の技能)
- ・実際の演奏を聴きながらリズム打ちをしたり、楽器演奏の動作を行ったりし、楽曲を特徴付けているリズムを感じ取って聴いている。(鑑賞の能力)

(3) 3つの達成目標との関わり

音楽における読解力とは、情報として流れる『音や音楽そのもの』を感受、知覚(受信)し、思考・判断を行い、表現(発信)していく総合的な能力であると考え。音楽科で育成する読解力の一つとして、「自分の考えたことや感じたことを簡潔に表現する能力」があげられる。

本時では、情報として受信するリズムを簡潔に表現し、共通に発信できる方法として「リズム譜」への整理を基礎・基本目標として活動していく。

(4) 展 開

学 習 活 動	○指導の工夫 ☆具体的な評価規準 ★評価方法
1. 学習の雰囲気をつくる。 ・愛唱歌、既習曲を歌う。 ・発声練習を行う。	○楽しい雰囲気を大切に、心と体の準備をする。 ○愛唱歌を歌う時は、授業がわくわくと始められるよう、歌う気持ちを大切にするように声をかける。 ○発声練習では、自分の声に耳を傾け、自然な発声ができるよう、体を自由に使うようにする。
2. 本時のめあてを知る。	○板書し意識付けを行う。
リズムを楽しみ、みんなで使える楽譜に表そう。	
3. 色々なリズムを楽しむ。 a : 何拍子でしょう。 2人組になり流れてくる。 音楽の拍子を知覚する。 b : みんなで合わせて クラス全員で音楽に合わせ、拍感を体験する。 c : リズム送り リーダーが流すリズムをよく聴き、拍感をもって次の人に送っていく。 d : 反復リズム リーダーが流すリズムを全員で反復し、リズムパターンを数多く経験する。	○一斉指導で行うよさを生かし、安心して活動を楽しむことができるようにする。 ○体験したリズムを意識し、整理できるよう、最初に声をかける。 ○a では曲の途中で拍子が変わるという仕掛けを設け、より敏感にリズムに反応させるようにする。 ○b c ではクラス集団のよさを生かし、楽しく色々なパターンのリズムを経験できるようにする。 ○d ではリズムを整理できるよう、パターンを意識して反復する活動とする。 ☆リズムを感じ、興味・関心をもって、進んで活動している。 ★活動中の様子の観察 ☆様々なリズムを聴いたり打ったりし、リズムのおもしろさを感じ取っている。 ★活動中の様子の観察
4. 本時で登場したリズムを整理する。 ・本時に登場したリズムを打つ。 ・リズム譜に表現する。	○本時の活動を振り返り、体験したリズムを想起し実際に打ってみる。〔音としての情報は消えてしまうことに気付くようにする。〕 ○リズムを簡潔に表現し、共通に発信できる方法として【リズム譜】があることを知らせ、整理するようにする。
5. 音楽に合わせてリズムを打つ。 ・整理したリズム譜を見ながら、リズムを打つ。 「ミッキーマウスマーチ」 「アメリカンパトロール」 に合わせて基本リズムを打つ。	☆様々なリズムを整理して聴きリズム譜に表現することができる。 ★リズムを整理している様子の観察、リズム譜への記入 ○基本的なリズムを取り上げ、視覚から入る情報を音として伝える活動を行い、リズム譜のよさを確認する。 ○聴きなれた2曲に基本的リズムで伴奏を行うことにより、音楽をより楽しみ、リズムも意識するようにする。 ☆実際の演奏を聴きながらリズム打ちをしたり、楽器演奏の動作を行ったりし楽曲を特徴付けているリズムに着目して聴いてい

6. 次時への予告 ・リズム譜へより多くのリズムパターンを記載することを告げる。 ・リズムパーカッショングループ練習を行う事の予告をする。	る。 ★演奏中の児童の様子を観察や演奏後の発言の聴取 ○次時の予定を明確に告げることにより、児童の意欲を持続させ、次時への期待感をもたせるようにする。 ○本時の目標の達成度を自己評価させる。 ☆進んでリズムを楽しみ、情報を整理し、楽譜に表すことができるようにする。 ★自己評価カードへの記入
7. 備考	在籍児童数 ○○名